



宮城県教育庁
文化財課

大崎市田尻

きたこまつ 北小松遺跡

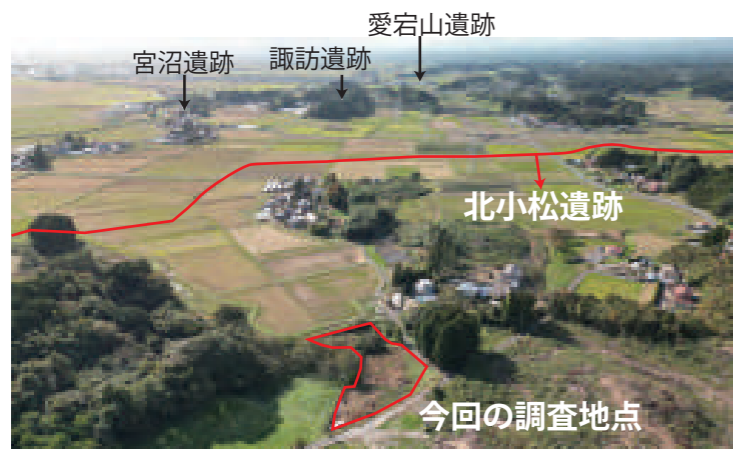
R 6 (2024)
11.23 (sat)
発掘調査
現地説明会資料

「重要遺跡」、北小松遺跡の確認調査を実施



北小松遺跡の位置（国土地理院地図、宮城県遺跡地図より）

★が今回の調査地点



北小松遺跡の遠景と周辺の遺跡（北西から）
写真中央やや下が今回の調査地点

【北小松遺跡とは？】

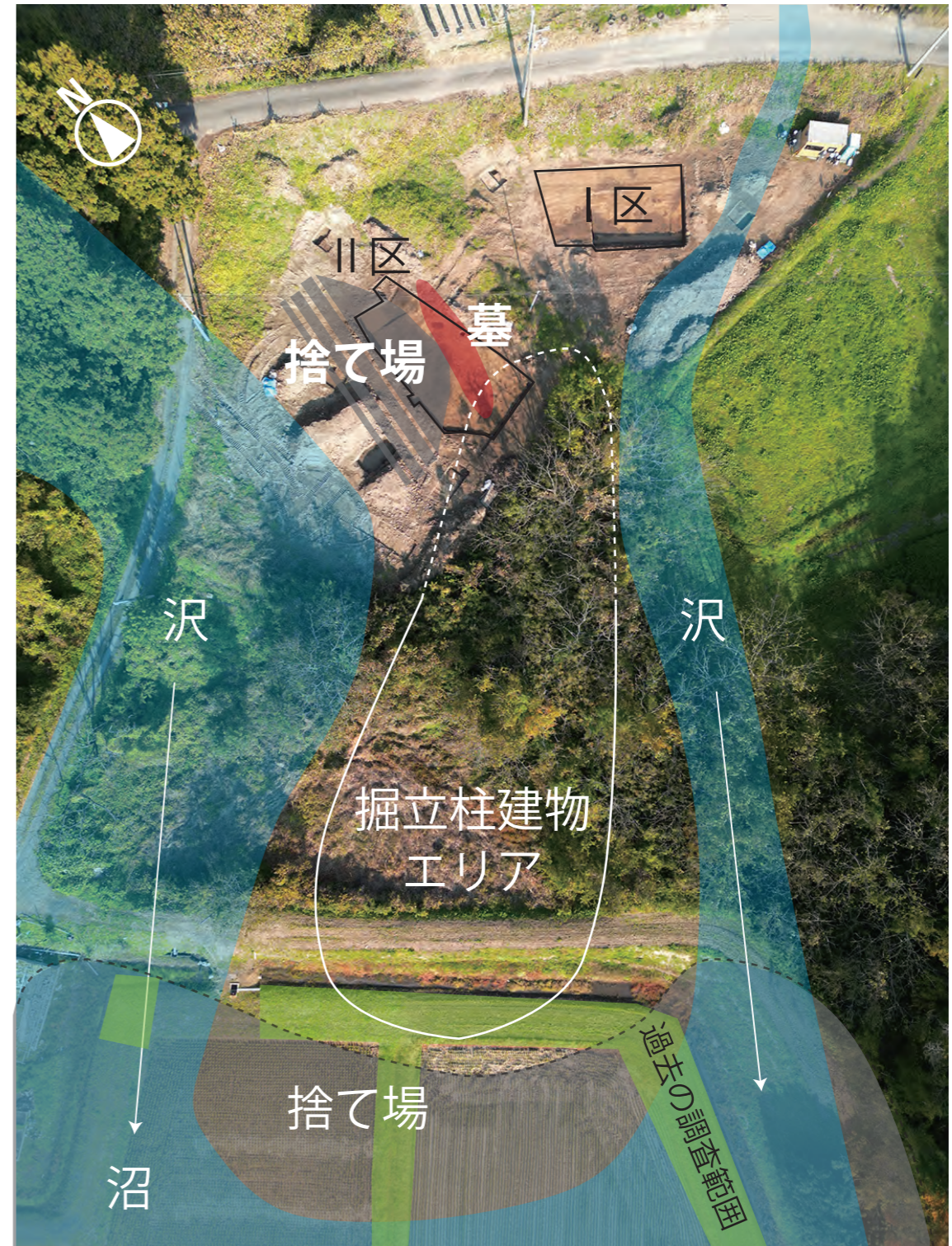
北小松遺跡は、縄文時代初め頃から弥生時代初め頃にかけて営まれた遺跡です。今から3000～2500年前の縄文時代終わり頃から弥生時代初め頃には、多数の建物跡や墓域、大規模な捨て場がつけられました。この頃は遺跡の西側には大きな沼地が広がっており、その周囲の丘陵上には同時代の集落が点在していました（愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡など）。北小松遺跡はそうした集落のなかで拠点的なものであったと考えられます。

【なんで調査しているの？目的は？】

北小松遺跡は、この地域の歴史を考える上で欠かせない重要な遺跡です。県教育委員会では、遺跡の全容を解明するため継続的に調査を行っていく計画で、今回の調査はその第1回目にあたります。過去に行われた調査は主に低地部に限られていたことから、今回は丘陵部の状況を確認する調査を行いました。調査地点は現在段々の水田となっていますが、本来はなだらかな南西斜面であったと見られます。

【何が見つかったの？】

斜面の上方側にⅠ区、下方側にⅡ区を設定しました。Ⅱ区では縄文時代晩期の土坑墓3基以上、遺物包含層1か所、時期不明の小穴10基以上を確認しました。Ⅰ区では古代（奈良・平安時代）や中世とみられる土坑や溝などを検出しましたが、縄文時代の遺構はこの地点まで広がらないとみられます。



縄文時代における地形・土地利用の推定

縄文時代晩期のゴミ捨て場、お墓を発見

・土坑墓
 土坑墓は穴を掘り土葬した跡で、口を下にして置かれた鉢形の土器や赤色の顔料が残っていました。過去の調査事例から、土器は遺体の頭部や曲げた膝の上に被せられたもの、顔料は遺体の一部に撒かれたものと考えられます。

・遺物包含層
 遺物包含層は斜面にゴミを捨て続けた結果形成されたもので、今回は浅い鉢形の土器や壺、急須のような土器の注ぎ口などが出土しています。なお、土坑墓は遺物包含層が形成された後に作られています。



土坑墓 (SK04) 長さ 120cm、幅 65cm



土器・赤色の顔料出土の様子 (SK04)

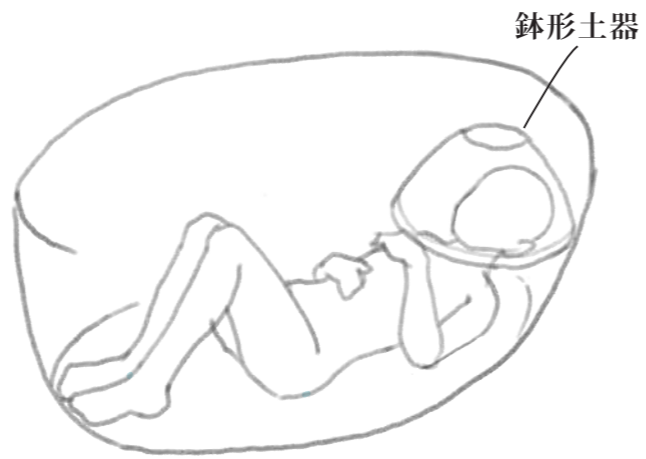
拡大



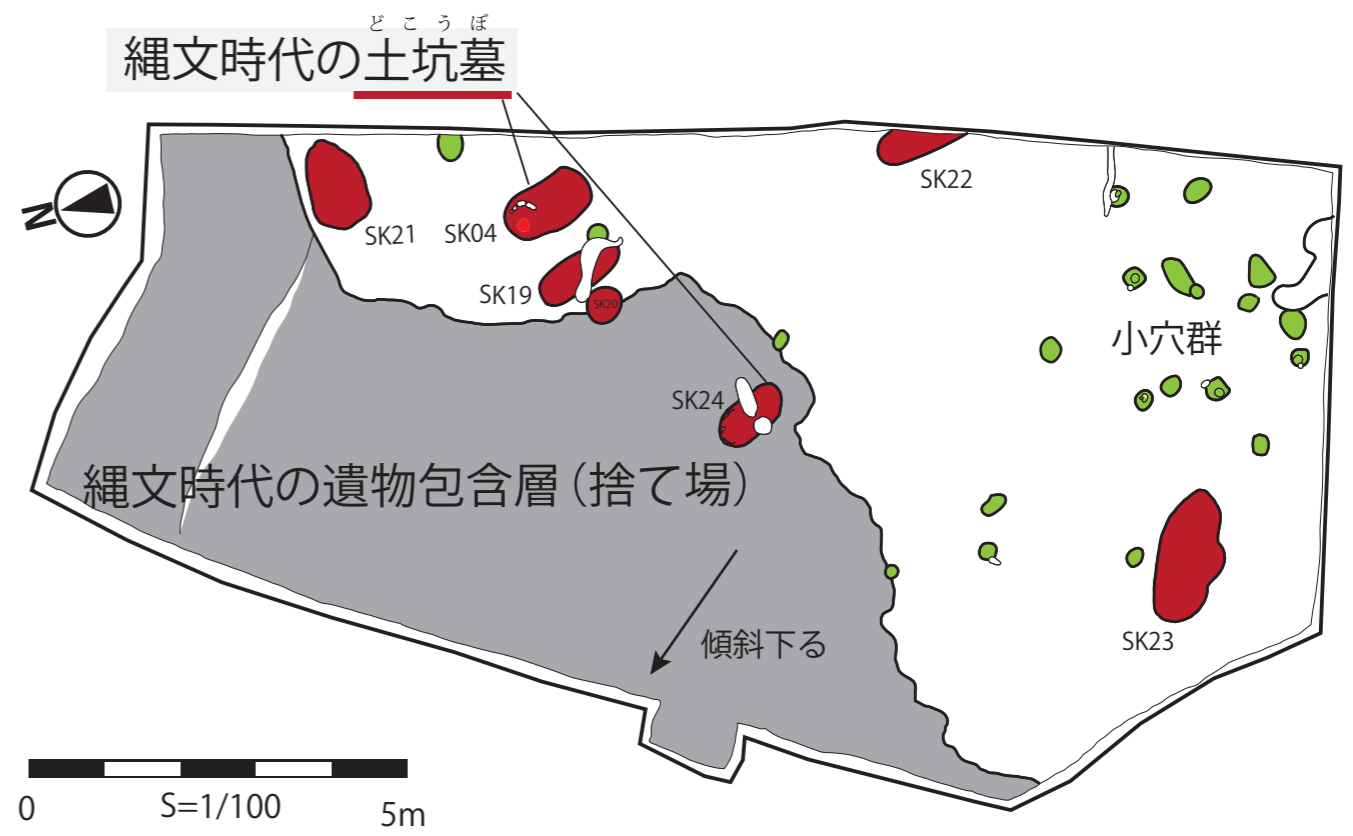
II区、遺物包含層(捨て場)の範囲(上が東)



縄文土器の出土状況



土坑墓への埋葬状況の推定イラスト



II区の遺構分布(土坑墓は可能性のあるものを含む)

まとめ

これまでの調査から、今回の調査地点の下方の低地部には大規模な捨て場や建物群、飼いイヌの墓が分布することが分かっていました。今回の調査により、丘陵上にヒトの墓域が存在すること、捨て場が丘陵斜面部まで広がっているとみられることがわかりました。また、周囲の堆積状況から当時は2つの沢に挟まれた地形であったと推定されます。

北小松遺跡の時代		
約38,000年前	旧石器時代	
約16,000年前	縄文時代	
		草創期
		早期
		前期
		中期
(約4,000年前)	後期	
(約3,000年前)	晩期	
約2,400年前	弥生時代	
		前期
		中期
	後期	
約1,700年前	古墳時代	

【調査要項】
 遺跡名：北小松遺跡
 所在地：大崎市田尻小松明神
 調査原因：重要遺跡確認調査
 調査主体：宮城県教育委員会
 調査担当：宮城県教育庁文化財課
 調査期間：R6.10.23～11.29 (予定)

・文化財課 HP ・みやぎ文化財チャンネル